

## B-2 指導法の工夫

### 1 聴く態度を育てる鑑賞活動

鑑賞の授業は、音を聴いてイメージを膨らませることが大切であるが、そのためには雑音を出さないことが何より大事であると思われる。静かな鑑賞マナーを定着させることが、その後の授業の集中度にも影響し、授業規律にも繋がると思われるので、時間をかけて丁寧に説明をして、生徒の鑑賞のマナー意識を高めるように心がけている。

E x. ①「表題と違うイメージがするかも知れませんが、自由に心の中でイメージを膨らませて下さい。一人一人が別々のイメージを考えるので、自分の考えを述べると、考えている人もそのイメージに引っ張られるので、話をしないで下さい。」

E x. ②「聴きながらリズムに乗って机を叩いて音を出したり、周りの人と話をすると、その雑音や話し声が、他の人には音楽の一部となって伝わってしまうので、音を出したり、話をすることがないように、静かに協力して下さい。」

### 2 楽しみながら行える器楽活動

器楽の授業では、基礎練習を一斉に行い、基礎基本の習得を充分に行い、平易な曲やアンサンブルの時間を多く取り、生徒自身が楽しんで取り組めるように心がけている。

E x. ①3年生のギター授業では、まず簡単な基礎練習を一斉に取り組み、時間を区切って少し手応えのあるものについては個人練習に切り替え、生徒相互に教え合いや質問が行われ、楽しんで学べるように心がけている。

E x. ②1年生のアルトリコーダー授業では、基礎練習の際に生徒の方を向いて吹く場面や意図的に後を向いて運指を見せない場面を作り、生徒の集中力を高める工夫をしている。

E x. ③1年生のアルトリコーダー授業では、導入後早めに平易なアンサンブル曲を提示し、グループでの活動を取り入れることで、楽しくリコーダーに取り組めるような工夫をしている。

### 3 練習方法を選んで行える歌唱活動

第2、3学年になると合唱コンクールという学校行事への盛り上がりを見せる反面、変声期を迎える生徒や音程が取れない生徒は、自分の不得手な部分を表出しなければならない合唱の授業が辛くなりやすい。そこで本題材のように、生徒が複数の練習方法や練習形態の中から選択して授業を行うことで、主体的な活動に繋がると思い、そのような場面を取り入れた授業に心がけている。

### 4 活用力について

音楽科の活用力については、本題材のような歌唱の授業の取組の他に、下記のような器楽や鑑賞の授業でも取り組んだ。

E x. ①第3学年のギター授業では、左手の親指の位置を移動させることで第2フレットの運指が容易になることを既習した。その後第3ポジションの運指が導入された際に、左手の親指の場所を移動させて、容易に薬指を押さえるよう工夫していた。

E x. ②第3学年の合唱の名曲の授業では、以前に習った曲を音楽史上の時代に分類して例示することで、時代の変遷による旋律や和声の響きや変化を意識した合唱曲の聴き方をすることができた。